

～まちのにぎわい創出～フレンドバスびふか運行事業

概要

美深町市街地において、高齢者などの交通弱者もいきいきとした潤いのある生活を確保できるよう、新しい交通サービス体系の確立と浸透を図るため、予約型フレンドバスを運行した。さらに、町内の知的障がい者が運営する「まちの駅かぜる交流ステーション」を活用した利用促進策を実施し、バスとまちの駅の利用促進、障がい者の活動支援や交流、特産品の消費拡大、市街地のにぎわい再生のためのきっかけづくりに取り組んだ。

事業の内容

事業の内容

右表のとおり

総事業費

10百万円

ポイント

- 市街地に予約型のフレンドバスを運行し新しい交通サービスを確立した。
- 市街地バス利用創出事業は、バス利用時に、障害者が運営する「まちの駅」の利用補助券を発行して利用促進を図った。
- 公共交通利用活性化事業は「まちの駅」の取扱商品などを積極的に活用してバスまつりを開催し、にぎわい創出につなげた。

事業の成果

市街地に予約型のフレンドバスを運行し新しい交通サービスを確立した。各種PRにより、10月以降利用が増加し、特に70歳以上の高齢者の日常生活の重要な足として機能している。調査事業によるアンケート結果では町民の9割に認知されており、フレンドバスの浸透を確認することができた。バス利用創出事業では、まちの駅の喫茶販売は前年比118%、常設販売は同128%となっており、一定の効果が確認できた。活性化事業(バスまつり)は公共交通整備と道路網整備を一体的に啓発でき、町民の関心と理解を高めることができた。次年度以降もフレンドバス運行と、まちの駅を活用した各種事業に取り組む予定である。

北海道美深町



利用補助券でまちの駅の喫茶を利用する町民



バスまつりには250人の町民が集まり体験乗車や抽選会を楽しんだ



市街地を運行したフレンドバス